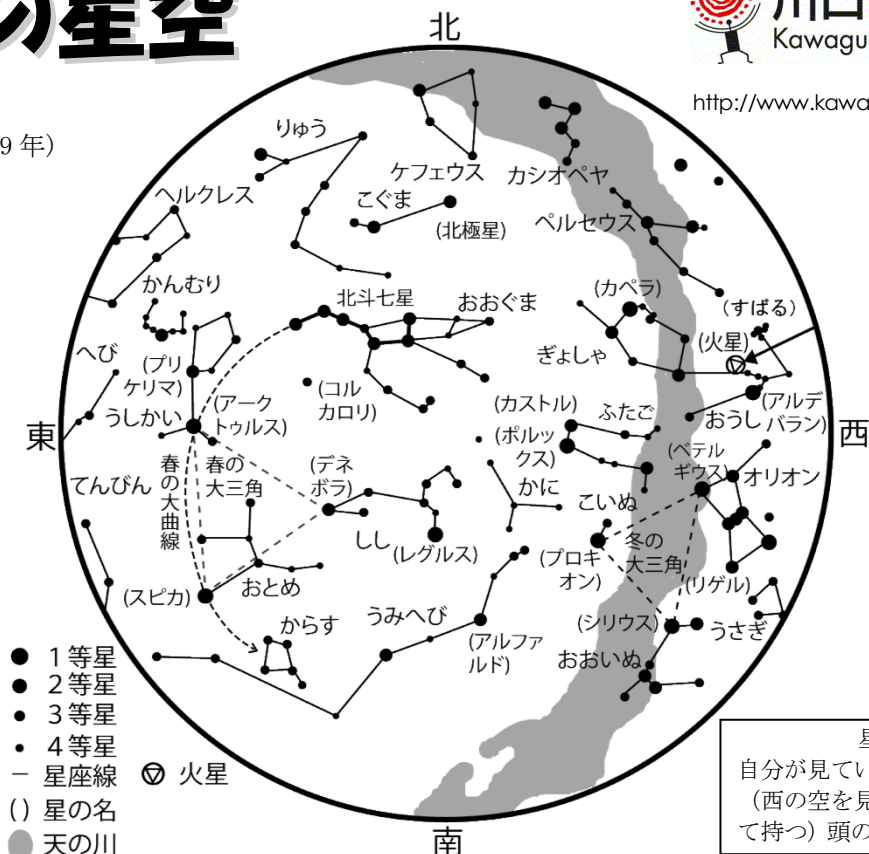


今月の星空

4月 (2019年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 5 日、⊙ 上弦 13 日、○ 満月 19 日、⊙ 下弦 27 日
惑星情報 火星 夜のはじめ頃 西 (おうし座 2 等級)

☆北斗七星からたどる春の星座

北の空の高い位置に北斗七星があり見つけやすくなっています。7つの星のうち、6つが2等星のため、明るい星の少ない春の星空の中では特に目立つ星の並びです。上の星図のように、北斗七星をひしゃくに見立てて、その柄にあたる星の並びのカーブを東に伸ばします。そうすると、2つの1等星、アークトゥルス (うしかい座) とスピカ (おとめ座) をつなぐことができます。これを春の大曲線と言います。また、春の大曲線を伸ばした先にはからす座があります。さらに、上で見つけた2つの1等星と、しし座の尾にあたる2等星デネボラをつなぐと春の大三角になります。

☆大きな星座と星座の境界線

春の星空には明るい星が少ない分、星々の間隔が大きくなるため、大きな星座が多く作られています。全88星座のうち、大きさランキングのベスト3が春の星座です。

順位	星座名	大きさ(平方度※)
1	うみへび座	1303
2	おとめ座	1294
3	おおぐま座	1280

※参考…オリオン座 26位 (595)

※平方度(deg²)…球面(天球面)の広さを表す単位。主に、星座や観測領域の大きさを表すときに用いられる。

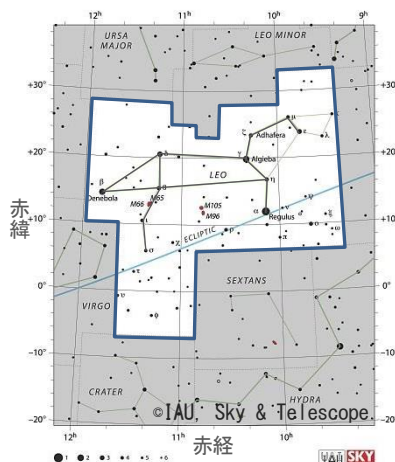


図 しし座の境界線

さて、これら大小さまざまある星座の大きさは、どのように決まっているのでしょうか。これは、1928年の国際天文学連合 (IAU) の総会で88星座の境界線が定義されたことによります。図のように、各星座の境界線は赤経 (せつけい) と赤緯 (せきい) の線で引かれています。これにより、星座が描かれる天球面 (地球を取り巻く仮想的な球面) が88の領域に分けられるようになりました。つまり、太陽を除く恒星は必ずどこかの星座に含まれることとなります。ちなみに、星座で定義されているのは、星座名とその境界だけで、星のつながり方や星座絵には決まりはありません。